

日本口腔顎顔面技工研究会 第10回学術大会 開催される

市立池田病院 歯科口腔外科 嶋本政嗣 (研 63)

平成20年9月27日(土)伊丹市商工プラザマルチメディアホールにて第10回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会が開催されました。「伝統技術の継承者たち～その現在と将来への展望」を大会テーマに歯科技工士以外に歯科衛生士、学生も含め200人を超える参加者がありました。



開会の挨拶をする吉川昇平(23期)大会長

吉川昇平(23期)大会長の挨拶のあと日本口腔顎顔面技工研究会 関三千男会長(大分大学)からこの研究会の10年のあゆみについて講演がありました。



一般口演 I での質疑応答 宮本哲郎(研 13)

一般口演では12題の演題の中、大阪大学歯学部附属病院総合技工室 宮本哲郎(研 13)から「加圧型熱成形器を使用した中空型顎義歯 1 回重合法」の発表がありました。従来の方法と比べこの製作方法は床用レジンの重合を1回に抑えることができ、また中空部への浸水を防ぐことに有効であると報告されました。特別講演 I では大阪大学歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 前田芳信教授から、歯科技工をとりまく多様なテクノロジーと素材を活かす一サーモフォーミングからインプラントシュミレーションまでと題して補綴物の基本である適合・外形・咬合について、またインプラントシュミレーションにいたる多様なテクノロジーと素材について講演がありました。



特別講演 I で講演する前田芳信教授

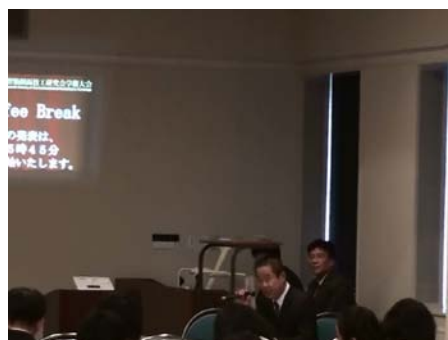
特別講演 II では「伊丹と酒造り」と題して小西酒造株式会社(杜氏)村田茂治取締役生産部長から酒造りの歴史や技術の伝承について講演がありました。

会員企画 I では日本パラメディカル協会の牧野エミ先生から顔面補綴に対する特殊メイクテクニックと素材の応用について、また会員企画 II では愛知医大歯科口腔外科技工部の森下裕司先生からは初めてのエピテーゼ・診断から設計までについて講演がありました。

今大会では口腔外科に関する歯科技工を中心に、病院に勤務する歯科衛生士の活動について、また歯科技工士と科学研究費についてなど幅の広い内容でした。

大会閉会後に「白雪長寿蔵ブルワリーレストラン」で親睦会が盛大に行われました。

次回は宮城県仙台市にて行われる予定です。



一般口演 III 座長 森正文(11期・研 47)

私は初めてこの学術大会の準備から携わり、たくさんの方と会うことができました。一般の補綴技工と違った分野の領域が主体の研究発表を聴く機会は少なだけに貴重な勉強の機会となりました。

学術大会の大会長の吉川さんをはじめとするスタッフのみなさん大変お疲れ様でした。